

びわ湖・里山観光振興特区

水の流れ 命育む 環の郷高島

5万6千市民の皆様の英知と工夫による 事業企画の提案をお待ちしております！

高島市は、市全域を対象とした「びわ湖・里山観光振興特区計画」を策定し、滋賀県から経済振興特区として認定を受けました（平成18年4月）。この計画は、当市の豊かな自然と文化を基盤とし、農林水産業の振興、環境保全と相乗効果をもたせながら、琵琶湖、里山を主な舞台とした観光を振興し、地域活性化を目指すものです。

市では、市民の皆さんと力を合わせて、チャレンジできる高島市づくりを進めます。特区や市独自の制度を活用し、意欲ある個人・事業者の皆さんの起業や事業拡大を支援します。高島市の自然と文化を活かし、地域活性化にも貢献する魅力的な事業計画を募集します。



■支援までの流れ

- 1、相談：事業計画やアイデアをお持ちの方は、まず高島市営業開発室へご相談ください。
- 2、計画の作成：自らの問題意識・ビジョン・アイデアを事業計画へと練り上げる機会、パートナー等を獲得していく機会などを提供します。
- 3、集中支援：優れた事業提案に対して、特区制度や市独自の制度を活用し、支援します。

■特区計画ポイント

- 人と人、人と自然とのつながりに再び経済性を取り戻し、生活文化を生きた形で次代に継承することを目指します。
- 地域のみなさん、事業者のやる気や観光地にふさわしい「おもてなしの心」あふれる高島市づくりを行います。そのため、市内外の人の知恵を結集し、活かします。
- 高島市にたくさんある魅力を活かし、事業を作り出してい

く挑戦者を育て、支援する仕組みを整えます。

■特区事業者

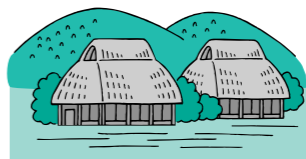
事業内容を審査の上、特区計画の目標および要件に合致する場合は、「特区事業者」として位置づけ、計画の期間中、事業内容に応じて支援をさせていただきます。

■応募方法・提出先

所定の事業企画書（高島市役所営業開発室にご用意しております。）をご記入のうえ営業開発室まで提出してください。

■お問い合わせ

営業開発室
電話（25）8515



びわ湖・里山観光振興特区計画

高島市の豊かな自然と文化を基盤として、農林水産業をはじめとする地場産業の振興、環境保全と相乗効果をもたせながら、琵琶湖・里山を主な舞台とした観光を振興し、地域の活性化をめざします。

高島市遺族会より

災害救援義捐金が贈呈されました

3月25日安曇川文化芸術会館においてチャリティー映画会が高島市遺族会主催で開かれ、収益金の一部が2月にフィリピン・レイテ島で起きました大規模な地滑り災害への義捐金として日本赤十字社高島市地区長である高島市長へ贈呈されました。義捐金については日本赤十字社の「フィリピン地滑り災害救援金」を通じて被災支援活動に使用されます。



市長日記

鯉幟こいすけになって空を泳いでみると、どんな景色が見えるでしょう。地上には、物だけでなく人々の想いや願いがあります。鯉幟をあげる心を大切にしたいですね。

今年も田植えが始まりました。当たり前のようで、実はとても有難いことです。野や山の自然の営みも、人の営みも。

安曇川町では、藤樹先生ゆかりの藤が美しい姿を見せてくれます。聞くと140の藤棚に261本の藤が植えられているとのこと。盆栽展にも例年約百鉢が展示されます。藤を愛する心も高島の宝ですね。今津東コミセンで開催された春蘭展に感動したことも思い出しました。

今春は501人が小学校に入学し、535人の中学生が誕生しました。お邪魔した海津のマキノ東小学校の入学式では、教科書の贈呈式があり、厳粛な気持ちをお相伴わせて頂きました。

4月8日には白鬚神社に茂山家が大概流狂言「白鬚」と「竹生島詣」を奉納してくださいました。昭和初期の奉納記録も拝見しました。演目の「白鬚」は、船の上で起こった、旅人と神主の詩いを鮎が仲裁するというもので、「竹生島詣」と並び、湖上交通の隆盛と都と高島の深い繋がりを教えられました。白鬚さんは、近江最古の歴史を誇ります。

国道367号の土砂崩れによる通行止めに負けじと「がんばれ朽木」の気合を込めて、朝市で桜祭りが催されました。そこにOBC高島の監督・選手ら12人が駆けつけ手伝ってくださいました。「家族のピンチを助けにきた」と、朝市に立つユニフォーム

ム姿はとても頼もしく爽やかでした。お客さんも一緒に「朽木！ガンバロー！！」と三唱しました。朝市にも活気と笑顔が戻ってきました。

海津祭りの歌の口上書を海津3区の集会所で拝見しました。大変興味深いものです。カラオケが普及するまでは、車座になって手拍子で唄い、個よりも衆の文化が脈々と伝承され、地域の福祉や教育を支える仕組みがありました。暮らしやすく人情が厚いと云われる沖繩には、一緒に食べて飲んで歌って踊る文化が同居しています。GDP（国内総生産）が高くなる個人化が強まりますが、協働を手放さないことが大事です。昨年、今津の住吉神社では、里帰りの外孫も一緒に賑やかに子ども神輿を担いでおられたことを思い出します。

4月6日に、県版経済振興特区「びわこ里山観光振興特区」に認定されました。人との違い、他所との違いを価値に変える観光産業を創るのです。また滋賀医科大学並びに龍谷大学の研究機関と共同研究の提携を致しました。健康づくりや予防医療、自治や協働の面で実りあることを期待しています。農林水産業の面では、国の地域再生マネジャー事業に採択され、持続可能研究所と一緒に「なりわい再生」と雪や鹿など「厄介者を資源」にする取り組みも始めました。チャンス溢れる高島市です。市民の皆様には、「びわこ里山観光大使」をお願い申し上げます。

海東 英和 拝



スポーツで
つながる人・
盛り上がるまち



4月2日に高島市を本拠地とする社会人野球クラブチーム「OBC高島」と元阪神タイガース投手の江本孟紀氏が設立した京都ファイアーバーズのオープン戦が予定されていましたが、残念ながら悪天候のため中止されました。試合関係者や試合を楽しみにしておられた人も残念だったと思います。試合を盛り上げようとテント村を準備されていた市内各地の関係者の方々も残念な天候だったと思います。

「ゴールデンウィーク」には「2006よみうり琵琶湖少年サッカー大会」が今津総合運動公園を会場に京阪神から約2000人の選手や応援の家族を集め、盛大に開催されます。ここでも大会を盛り上げるために、市内6つの観光協会が共同で案内テントを設けられるほか、合併した市商工会からも各地の多様なテント村が

出店される予定です。多くの人が集まるスポーツイベントでは、宿泊される方々を地域を越えて受け入れたり、高島市をPRし、地域を盛り上げようと集まっていたり、「OBC高島」をはじめ地域のスポーツチームを応援する輪も広がるなど、市内の横のつながりが広がっていることが実感できます。

こうしたスポーツが起点となって地域や人々のつながりをもたらす、波紋のように人々の心が揺り動かされるようになっていけばと考えます。

また、高齢者のための介護予防教室などへスポーツリーダーが参画することも予定されています。スポーツを通じて元気なまちが、人や地域のつながりで広がっていくことが望まれます。

（企画調整課）